

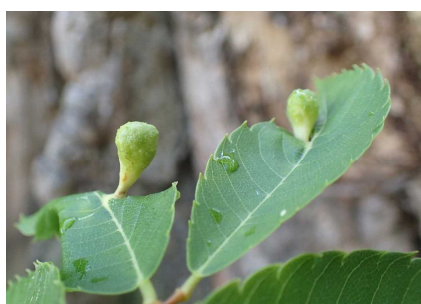
## 季節感

### 1. 雪虫 (地図中①地点)

12月に入り、雪も近いと思わせる季節風が吹いた後の小春日和、白いものが宙に浮いています。公園に多く、博物館前でよくみられますが、頂上でも飛んでいます。開けた空間がある場所がよく目につきます。漂っているようにみえますが指向性があります。正体は、綿をつけたアブラムシの有翅虫です。綿はアブラムシが分泌した蠟(ろう)物質です。初雪が降り始める季節に舞うので雪虫といわれていますが、地域によりアブラムシの種が異なります。

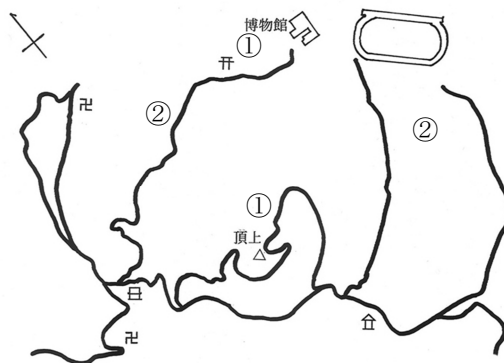


ケヤキフシアブラムシの有翅虫



ケヤキハフクロフシ

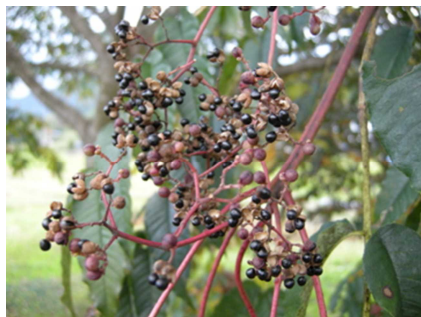
倉吉では、ケヤキフシアブラムシ(ケヤキヒトスジタマワタムシ)が主役です。アブラムシの仲間は、一般に春から秋まで雌のみで産仔増殖し、晩秋に産卵雌が現れて卵で越冬します。また、夏期には寄主を変えます。ケヤキフシアブラムシは5月頃、ケヤキの葉の表に膨れた餅のようなコブを作ります。これがケヤキハフクロフシという虫えい(虫こぶ)で、4月に孵化(ふか)した幼虫が新葉に寄生してできます。中で増殖したアブラムシから、6月になると有翅虫が生まれ、ふくろから出てササに移動し、根で増殖します。ここで繁殖したのち、秋に雌雄の有翅虫がケヤキに戻り産卵します。このときに雪虫といわれるのです。



### 2. 置き土産 (地図中②地点)

遊歩道を歩くと、白っぽい実のたくさん付いた房が何個も同じ場所に落ちています。よくみると実の殻ばかりで中身がありません。これは、カラスザンショウの実です。

だいたい、イヌ、カラス、スズメ と前置される植物は人の役に立ちません。サンショウという名前がついているように、食用に用いる山椒と同じミカン科ですが、香りがよくなく、陽樹で成長が早く大木になります。枝葉に鋭い棘があり、幹にも残っています。この棘のため、タラノキと間違えて新芽を食べてかぶれた人がいました。



カラスザンショウの実

人が食べるとかぶれるカラスザンショウですが、鳥には好まれ、たくさん集まりプチプチ音をさせて食べています。メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ルリビタキなど多くの種がみられます。名称につくカラスはどうでしょうか。外皮がはじけた後は、黒い皮をかぶっていますが、漿果(しょうか)で水分があります。前述の落ちている房は外皮のみです。落下場所は風によるのか、何かが運んだのか、推理するとともに現場に遭遇してみてください。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2011)